

とうきょう すくわくプログラム活動報告（食育：ミニトマトの生育）

1. 活動のテーマ

＜テーマ：食育＞

ミニトマトの育成と収穫

＜テーマの設定理由＞

- ・トマトの生育課程を知り、普段食べているトマトが、苗を植えるところから、実になって食べられるようになるまで、どのように育っていくか体験する。
- ・成長したトマトを収穫し、どのトマトが収穫に適しているかを考える。

2. 活動スケジュール

- 4月 土作り / 苗購入
 グループ分け / グループの表示製作
 トマトができるまでの意識付け
- 5月・6月 苗植え
 毎週様子をみながらグループごとに水やり
 観察／実ができ始める
- 7月 収穫

3. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

○準備した道具・環境設定等

- ・土づくり：畑として使用していない場所を利用したため、土を耕し、肥料を入れた。
- ・ミニトマトの苗を3種類準備（生育の違いや、実の色、味等の違いを感じるため）
- ・普段は園児が入れない場所に畑を作ったので、鍵を開けておき、職員の見守りを配置。



○活動の実績

・小さな苗の状態からだんだん成長し、実がなり始め、自分の背丈より大きくなるまで、水やり、枝を整えたりして、観察した（週１～２回くらい）。

また、保育参観では、親子でトマトを見学し、植物の生育について話す機会を作った。



・実がなってきた頃から、どの苗の実が多いか、大きいか、色合いはどのように違うかを比べた。

また、成熟して赤くなった実を虫や鳥が食べた形跡を見て、「おいしいから（甘いから）食べに来た」「どの苗がおいしかったかな」など、子どもたちの発見があった。

・収穫に際しては、どの色がおいしそうか、苗の種類によって異なる実の大きさ、色、実の付き方など、観察しながら、自分でおいしそうなお実を選んで収穫をした。

・トマトの生育について、他学年の職員とも経過を確認したり話したりできた。

また、トマトの観察から、会話、共感等、関わる機会が増えた。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・子どもの観察力

「この葉っぱは、この前見たときにはなかった」、高さも「これだけ大きくなった」など気付くことができていた。

太い幹の部分の色が黄色っぽくなってくると、「そろそろ枯れてしまうのかも」と心配する様子が伺えた。

子どもたちが気づいたことを全体で発表した。

興味のある子はそんな声掛けをしなくても、自分たちで苗の変化を感じ取れていた。

・苗の種類を複数準備したが、植える場所を変えて、日当たりによっての成長の変化を感じたりできて良かったのかもしれない。